

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

Art information of Fuji city Vol.20
SUMMER
Culture Magazine ROSE 1997

夏号



vol. 20

ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1997年7月発行(第20号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416 富士市藤原1307番地の8 TEL(0545)60-2510(代)
企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 アドスペース エービック株式会社



YUMIKO SAMEJIMA

今年の初秋、「日本歌曲（日本のうたシリーズ）」で広いファン層を持つ声楽家、鮫島有美子さんが、いよいよロゼシアターに登場します。
十年近く歌い続けてきた日本の歌。来年からはまた新たな出発を考えておられるようです。「十年間の集大成を皆さんにお届けしたい」と鮫島さん。そんな彼女の近況をレポートしました。

PROFILE

ソプラノ歌手。東京芸術大学声楽科、同大学院修了。75年二期会オペラ「オテロ」のデステモーナで主役デビュー。82年よりドイツ、ウルム歌劇場の専属歌手として活躍する。85年「日本のうた」でレコードデビューを果たし一躍脚光を浴びる。90年日本ゴールドディスク賞。著書「歌の翼に」。二期会会員。ドイツ在住。

鮫島有美子

INTERVIEW in Japan

ヨーロッパをはじめとする演奏活動が大変忙しいようですが。

フリーの立場で演奏活動

お陰様で日本にいる期間が一年に三、四ヶ月ぐらいいなりました（前は一ヶ月ぐらいい）。私はドイツでは、現在フリーで劇場専属ではないんです。劇場専属の時は、日本に来る期間は限られていました。この七、八年は大体年に三、四回、多いときには五回くらい帰ってきています。

帰国の目的はお仕事が多いのですか。

日本では仕事漬けの毎日？

ええ、そうなんです。日本に着いた翌日から渡欧の前日ぐらいいまで、仕事でビッシリ。むしろむこうを拠点にして日本へ仕事に来るという感じですね。たまたま十年ぐらいい前に日本で録音したCDから、いろいろな方面へ仕事が入って

結局コンサートだけじゃなく、取材の仕事とかテレビとか、歌うこと以外の仕事も増えましたね。

多方面でご活躍ですが、肩書的にはやはり、オペラ歌手でよろしいですか。

一般的には声楽家と……

一般的には声楽家と……。歌うことを仕事にしているのでもう呼ばれます。その中には、もちろんオペラ、オペレッタ、オラトリオ、歌曲もあります。声楽家の場合は、声の種類で自分が歌える歌、歌える役っていうのが決まっています。例えば、「魔笛」の夜の女王などは、私は逆立ちしても歌えない。音がでないんですね。ソプラノの中でもいくつかに分かれるんですよ。例えば、リリックとかコロラトゥーラっていうようにね。ごく一般的なリリックというのは日本語に訳すと叙情というような意味ですけど、コロ

ラトゥーラというのは、非常に声の音域が高いですし、装飾音を使ってころがすように歌うんですね。ですから、そういうものをお出来るに方っていうのは非常に限られています。

日本のオペラ「夕鶴」の場合、おつうの役は、やはり一番リリックソプラノが合っていますね。ほかのオペラでは「ラ・ボエーム」のミミなどがあります。



ピアノ伴奏者であり、アンサンブルの指揮者でもあるご主人のヘルムート・ドイヒ氏と。

日本歌曲についてですが、鮫島さんのCD「日本のうたシリーズ」が十年くらい前に発売され、爆発的に売れましたね。それからブームになったようですが。

「日本のうた」が企画賞に

ありがとうございます。あの時は、全然予期しないことで、最初にお話をいただいたこと自体ビックリしました。企画をなさった方が、たまたま私のことを大衆時代からご存じだったらしいんです。それで是非っていうお話になって……。最終的にレコード界で企画賞をいただいたそうです。

今年九月にロゼシアターで公演されますが、富士市のファンに一言。

私の集大成をお聴きください

前半は日本の歌を歌い、後半は世界の歌めぐりという感じでアメリカのフォスターの曲とかロシア民謡……。最後にウィーンのものでしめる予定です。私の主人がピアノ伴奏と室内アンサンブルの指揮者で同行します。

それから私としては今の形でのコンサートはこれが最後となります。日本で親しまれている歌を歌って十年ですので、来年はまた別の企画でやっていくつもりです。富士市でのコンサートは最終から数えて二番目となりますので、精一杯歌わせていただきます。是非みなさまお揃いでおいでください。

（富士公演の詳細は十頁をご覧ください）



時帰国していた江藤俊哉さんが日本フィルと共演したメンデルスゾーンの「ヴァイオリン協奏曲」を聴いてからです。とにかくすごいシヨックだった。

中学の頃は学生向けの音楽鑑賞会に入り、月一回の定例演奏会を楽しんでいました。そんな折、初来日のカレル・アンチェル指揮チェコフィルの大阪公演を体育館で聴きました。三〇〇円の席でして、丁度そのランクの席は、今のサントリーホールで言えばコーラス席に当たります。

高 指揮者と対面する席ですね。

堤 そうです。その上演会は四時間も延々と続きましたから、その時指揮者についていいなと思ったのです。

村松 それがきっかけで指揮者の道へ？

堤 ええ、それで中学三年の時、両親の反対を押し切って上京、斎藤秀雄先生を訪ね桐朋学園へ入ったのです。

村松 先生はコントラバスの名手でもいらつしゃいます、これは高校時代に？

堤 これは斎藤先生のアドバイスです。「君は、指揮者を目指すのだからヴァイオリンは止めなさい。演奏会の時ヴァイオリンは常に音符とにらめっで、練習も大変。その点コントラバスは音符も少なく、指揮の勉強時間が十分に取れる」。当時中学三年生ですから、一も二もなく先生の言葉に従ったわけです。

高 ヴァイオリンからコントラバスへ移って違和感はありませんでしたか？

堤 十五歳から習ったわけで、初めて音を出した時はこれが楽器なの？と言う感じの音しか出ず非常にシヨックでした。それでも二ヵ月後にはオーケストラの練習に出来ましたよ。出席して分かったのが、当時、桐朋のオーケストラはコントラバ

ス奏者が二人しかいなかったと言う事実。斎藤先生が私にコントラバスを熱心に勧めたのが初めて分かった気がしましたね。(笑) 丁度その頃、ゲイリー・カーのレコードが発売されました。彼の演奏はコントラバスの概念を超越したところにあるんですが、このレコードにすごく感銘を受けまして、こんなに弾けたら面白いなあと、今では信じられないほど練習をしましたね。当時の桐朋学園は朝五時から夜十時まで練習ができたのです。

高 環境が整っていたんですね。

堤 そう、朝六時に登校すると「遅い」と先輩に叱られましたね。その間に腕も上達し、高校時代に既にプロの楽団のエキストラをやっていました。

村松 指揮よりコントラバスの方が面白くなった……。

堤 そう、ですから大学もコントラバスのままで進学しました。指揮者を最終的に選択したのは、大学を卒業した年のヨーロッパ演奏旅行で、秋山和慶さんの誘いを受け、東京交響楽団へ副指揮者として入団した時点です。

指揮者デビューは七十二年の四月二十五日です。当時、僕より少し遅れて小林研一郎が入団して、二人で交互にテレビ番組「題名のない音楽会」でよく棒を振りました。



富士フィルハーモニー管弦楽団：1985年富士市を中心とした音楽愛好家により創立。現在までに16回の定期演奏会を重ねています。

音楽との出会い、そして二十五年間の音楽との彷徨(たひ)

高 先日、四月十九日の私たち富士フィルの定期演奏会では、指揮をしていただきありがとうございました。

堤 どうも、お疲れさまでした。

村松 丁度、その一週間後が先生の指揮活動二十五周年の記念日でしたね。

堤 そう、正確には六日後の四月二十五日です。

高 早速ですが、その二十五年を振り返って、先生が指揮者になられたきっかけとはどんなことからですか。

堤 最初はヴァイオリンから初めました。五歳の時かな。ですが本格的に練習に身を入れたのは小学五年生の時、日曜の朝のTV生番組で当時米国在住で、一

日帰国していた江藤俊哉さんが日本フィルと共演したメンデルスゾーンの「ヴァイオリン協奏曲」を聴いてからです。とにかくすごいシヨックだった。

中学の頃は学生向けの音楽鑑賞会に入り、月一回の定例演奏会を楽しんでいました。そんな折、初来日のカレル・アンチェル指揮チェコフィルの大阪公演を体育館で聴きました。三〇〇円の席でして、丁度そのランクの席は、今のサントリーホールで言えばコーラス席に当たります。

高 指揮者と対面する席ですね。

堤 そうです。その上演会は四時間も延々と続きましたから、その時指揮者についていいなと思ったのです。

村松 それがきっかけで指揮者の道へ？

堤 ええ、それで中学三年の時、両親の反対を押し切って上京、斎藤秀雄先生を訪ね桐朋学園へ入ったのです。

村松 先生はコントラバスの名手でもいらつしゃいます、これは高校時代に？

堤 これは斎藤先生のアドバイスです。「君は、指揮者を目指すのだからヴァイオリンは止めなさい。演奏会の時ヴァイオリンは常に音符とにらめっで、練習も大変。その点コントラバスは音符も少なく、指揮の勉強時間が十分に取れる」。当時中学三年生ですから、一も二もなく先生の言葉に従ったわけです。

高 ヴァイオリンからコントラバスへ移って違和感はありませんでしたか？

堤 十五歳から習ったわけで、初めて音を出した時はこれが楽器なの？と言う感じの音しか出ず非常にシヨックでした。それでも二ヵ月後にはオーケストラの練習に出来ましたよ。出席して分かったのが、当時、桐朋のオーケストラはコントラバ



高 直樹さん：富士フィル運営委員長。ヴァイオリンを担当しています。

自分の心の内に響く音を求めて

高 その当時と今とは、音楽環境も随分違うと思いますが。

堤 それは雲泥の差ですね。例えばホールにしても東京文化会館、日比谷公会堂、郵便貯金ホール程度しかありませんでした。村松 サントリーホールもオーチャードホールもまだ無い……。

堤 ええ、影も形もない。それに在京のオーケストラも確か五団体程度でした。高 先生は七十五年に東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団を創立されましたが、今年新たにロイヤルメトロポリタン管弦楽団を創立されましたよね。

堤 これは、以前から私の中に、日本のオケはどうしても音の立ち上がり、いろいろな音色がヨーロッパのそれと違う。その意味でウィーンフィルの音はお手本になる。その音を自分なりに追求してみたいという思いがあったのです。そこで



特集インタビュー 堤 俊作氏 [指揮者]

◆テーマ 「地方のオーケストラの明日」

ロゼシアターがオープンして、今年で4度目の夏を迎えます。この4年間に国の内外から多くの音楽家の皆さんが富士市を訪れ、ホールを様々な音色で飾り、私たちに限りない感動のメッセージを送り届けてくれました。

中でも指揮者堤俊作氏は、最も多くロゼシアターに登場され、市民に密着した音楽活動を展開していただいています。地元合唱団やアマチュアオーケストラ「富士フィルハーモニー管弦楽団」の指導、静岡交響楽団を率いての「小学生招待コンサート」の指揮など、その活躍は実に広範にわたっています。また、今年指揮者デビュー25周年にも当たります。そこで、本誌ではこの節目の年に「地方のオーケストラの明日」をテーマに堤氏にお話を伺うことにしました。聞き手は、堤氏から親しく指導を受けておられる「富士フィルハーモニー管弦楽団」の、高直樹さんと村松正吾さんにお願ひしました。

PROFILE 堤 俊作

'70年桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄に師事。'72年東京交響楽団でデビュー、'73年から'77年まで正指揮者を努める。'74年ルパート指揮者コンクール第3位。'78年アンセルメ国際指揮者コンクール優勝。'75年東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団を創立し、'92年まで常任指揮者、'88年から'92年まで札幌交響楽団専属指揮者も兼任。海外でもロンドン交響楽団、スイス・ロマンド管弦楽団等に客演、またベネズエラ国立シモンボリバル交響楽団日本公演を指揮。'88年エジンバラ音楽祭、'91年松山バレエ団アメリカ公演、'92年北京、上海公演、'92年、'94年、'96年、レニングラードバレエシアターを指揮し、バレエ音楽の第一人者である。現在、梓室内管弦楽団音楽監督、桐朋学園大学講師、東京コンセルヴァトアール尚美客員教授、岐阜国際芸術祭芸術監督、静岡交響楽団音楽監督、関西フィルハーモニー管弦楽団指揮者。



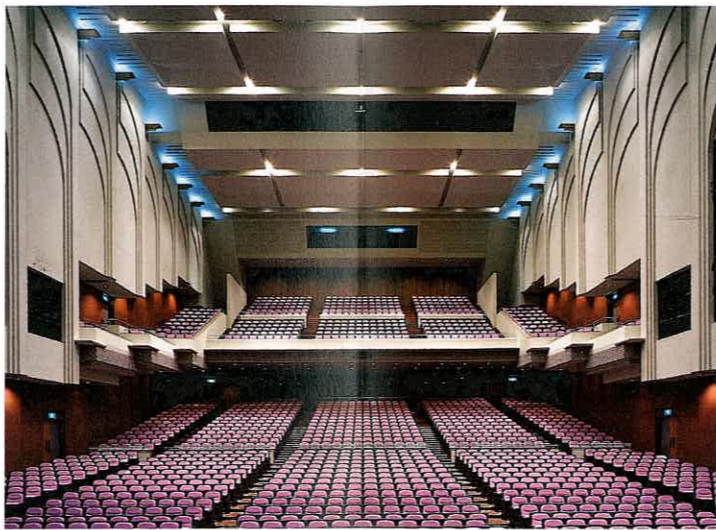
市民合唱の夕べ：三枝成彰氏作曲ピアノコンチェルト合唱付「見よ西風からの富士」。ロゼシアターの柿落としと、昨年の新市施行30周年記念の際に披露。両公演とも堤俊作氏の指揮でした。



小学生招待コンサート：富士市内の小学校6年生全員を毎年招待し、オーケストラの生の演奏を楽しんでもらっています。同様に中学校2年生対象の「中学生招待コンサート」も開催しています。

財団が中心となって本格的なホールで、生のコンサートを提供する。子供たちはそれを聴いて、いいなという気持ちを持つ。これはとても大切なことですので、ロゼが存続する限り続けてほしい事業です。そうすれば今の子供たちが大人になって、またその子供たちが来る。ヨーロッパの町で根付いているような音楽文化土壌維持のサイクルが出来上がる。

高 会場の子供たちの表情は……。
堤 これはね、後で感想文をいただくんですよ。それを読むと子供たちが実に真剣に聴いていてくれることがよく分かる。心底やってよかったなあと思います。
村松 今後の子供たちの成長が楽しみです。と、ところでホールの音響も成長するといふ話をよく聞きますが……。
堤 ホールは年輪と共にそのホールサウンドが育つてきます。しかし、音がそのホールに馴染むには時間がかかります。サントリーホール、大阪シンフォニーホールなどは音が落ち着いてきました。紀尾井ホールは新しいことからまだまだ落ち着きません。ロゼのホールの音も大分馴染んできているなど、棒を振るたびに感じます。独特のホールサウンドがありますから上手に育つていくと思います。これからの楽しみですね。



村松 一般に地方都市のプロのオーケストラは、それぞれの県から援助を受けているのですか？
堤 かなりの援助が出ています。札幌、仙台、仙台、広島、福岡はわかりやすい。
村松 そうですね、後で感想文をいただくんですよ。それを読むと子供たちが実に真剣に聴いていてくれることがよく分かる。心底やってよかったなあと思います。
村松 今後の子供たちの成長が楽しみです。と、ところでホールの音響も成長するといふ話をよく聞きますが……。
堤 ホールは年輪と共にそのホールサウンドが育つてきます。しかし、音がそのホールに馴染むには時間がかかります。サントリーホール、大阪シンフォニーホールなどは音が落ち着いてきました。紀尾井ホールは新しいことからまだまだ落ち着きません。ロゼのホールの音も大分馴染んできているなど、棒を振るたびに感じます。独特のホールサウンドがありますから上手に育つていくと思います。これからの楽しみですね。

村松 音を上手に育てるには、きちっと鳴らすことのできるオーケが必要ですね。ですからロゼが今後取り組む課題は、東京とか海外からオーケを招く場合、本物を招くべきである、じゃあ偽物って何？と聞かれると答えに窮しますが、例えば指揮者であれば、オーケにやたらと媚びる人、肩書きを振り回す人などは避けるべきです。そのあたりの見極めの相談窓口となるのも財団の役割でしょう。



村松 常にならば歩んで行きたい
高 最後になりましたが、先生のこれからの指揮活動プランをお聞かせ下さい。
堤 過去二十年近く、五十歳の今日まで、

村松 常にならば歩んで行きたい
高 最後になりましたが、先生のこれからの指揮活動プランをお聞かせ下さい。
堤 過去二十年近く、五十歳の今日まで、



村松 先生は現在静岡交響楽団の音楽監督をなさっていて、また私たち富士フィルの指導をしてくださっています。それが、それ以前の静岡県とのかかわりは？
堤 全く無かったわけではありませんが、実際にはロゼシアターでの柿落とし公演

ロゼシアターが取り持った
静岡との縁

二十五周年を期にその想いを表現させようと、ウィーンで活躍していた奏者を中心に、ロイヤルチェンバールオーケストラやサイトウキネンオーケストラに参加している若手を募って結成しました。彼らは一定レベル以上の高い技量を持った者ばかり。また「ロイヤル」の称号は皇太子殿下より許可をいただいて使用したわけです。
高 そうしますと今後は、このオーケを中心にした活動になりますね。
堤 これは、メインになりますね。ですから、二十一世紀に向けて日本に今まで無かった、やはり基本はヨーロッパの奏法だよというオーケを作ってみたい。常々言っていることは、あのオーケの演奏会を聴いた、よかったです。次は行けなかった、もったいないことをしたとお客様に思わせるオーケにしたいということです。

地方のオーケストラ
が目指すもの

村松 一般に地方都市のプロのオーケストラは、それぞれの県から援助を受けているのですか？
堤 かなりの援助が出ています。札幌、仙台、仙台、広島、福岡はわかりやすい。
村松 そうですね、後で感想文をいただくんですよ。それを読むと子供たちが実に真剣に聴いていてくれることがよく分かる。心底やってよかったなあと思います。
村松 今後の子供たちの成長が楽しみです。と、ところでホールの音響も成長するといふ話をよく聞きますが……。
堤 ホールは年輪と共にそのホールサウンドが育つてきます。しかし、音がそのホールに馴染むには時間がかかります。サントリーホール、大阪シンフォニーホールなどは音が落ち着いてきました。紀尾井ホールは新しいことからまだまだ落ち着きません。ロゼのホールの音も大分馴染んできているなど、棒を振るたびに感じます。独特のホールサウンドがありますから上手に育つていくと思います。これからの楽しみですね。



村松 正吾さん：富士フィル副運営委員長。ピオラを担当しています。

それに県内総生産（GDP）から言っても、静岡県は全国十位前後のほうですね。県の力からしてもっと援助があってもいいと考えます。また何よりも静岡のレベルは、地方のオーケとしては上位クラスに入ります。いずれにしても、こうしたサポートがあつて静岡の運営が安定し評価が定着すれば、今度はそのメンバーが例えば東部に五つのアマチュアオーケストラの指導に出向く、そうした連携プレイで音楽レベル全体のアップを図ることが、私は理想的だと思います。
高 そうなればすばらしいですね。
堤 私たちがアマチュアのオーケを大切にしなければいけない第一の理由は、本当に音楽の好きな皆さんの集合体だからです。自分でお金を払って音楽をやっているわけですからね。これは一番大事なことですね。やはり、アマチュアのオーケの皆さんに地方の町で音楽の土壌を築いてもらって、そこへプロが常々アマのお手本となるレベルで、気持ちで演奏を続けることが本場に大事だと思う。

村松 楽しんで歩んで行きたい
高 最後になりましたが、先生のこれからの指揮活動プランをお聞かせ下さい。
堤 過去二十年近く、五十歳の今日まで、



静岡交響楽団：1990年、「静岡室内管弦楽団」として発足。県内唯一のプロオーケストラ。1994年、堤俊作氏の音楽監督就任と同時に「静岡交響楽団」と改名。年4回の定期演奏会のほか、青少年音楽教室など県内音楽文化の向上を目指して幅広い活動を行っています。

ロゼシアターでの
楽しみな出会い

村松 ところで、先生はロゼでは柿落とし以降何回くらい指揮されていますか？
堤 そうですね、静岡の定期演奏会もありましたし、富士フィルも既に二回振っていますよね。そうしますと十回以上になりますか？
村松 ロゼシアターの印象は……。
堤 柿落としの時、合唱のリハもあり大変でしたが、本番当日ガレリアから一望のもとに見渡せる富士山には、私だけでなく、新日フィルのメンバーも感嘆の声を上げていました。この上ないロケーションの地へ会館が建つたものだというのが率直な感想です。唯一難を言えば公共の交通の便の悪さですね。これが解決すればもっと大勢のお客様がよべます。
高 先生は、財団主催の「小学生招待コンサート」の指揮もされていますね。
堤 この招待コンサートのよさは、子供たちをホールへ集めますよね。これは既に他の町に例がありますが、ロゼの場合

自由を実現する職人業

修復家ミヒャエル・ロックス氏の背景
内藤開喜

ドイツの職人業

私の工房に年間三〜五人の弟子入り希望がある。今年のドイツは昨年を上回る六十三万人の青年が職人希望という。彼らに対し二〇〇〇年迄に国及び州が二〇〇億マルクずつ援助負担する計画だ。

ドイツのマイスター制度は長い伝統がある。手工業全般から工業に至る各職種を網羅している。本源の手工業では、肉屋、パン屋、左官、理髪師、美容師、機械工、指物師、石工、家具造り、齒科技工師、楽器製作者等々一般的なものから屋根葺職人、煙突掃除夫、棺桶装飾師、パイオリン弓造り等特殊なものまでマイスターは多彩だ。

マイスター制度は、職業による社会への貢献により個人の自由を実現できるといふ考え方に由来する。現代は高度の技術発達により個人が制約を受け、この可能性は少なくなった。修復業もそういった危機に直面している職業の一つだ。



ロックス、鹿嶋、栗からなる修復前のバロックだんす(ブラウンシュヴァイク又はダンツィヒ市、1730~1745年製作、角と豊富な埋込細工に特徴、ロックス氏工房)



同バロックだんす前面扉の埋込細工

価値判断の難しい文化財

修復家の課題は文化財の保護・保存・修復である。重要なことは修復で使用する材料が製作当時に用いられた材料構造と調和しなければならぬことである。当時のマイスターは価値ある芸術作品の復原を教会や官廷から委託された。彼らは原作を作ったマイスターの所謂「名人芸」を熟知していることを職業能力として要求された。過去の作品を正當に評価するために、製作当時の価値評価や製作に費やされた労力・時間のような評価が基準として定着しなければならぬ。今日、当時と同じ機械の助けを借りない製作方法で模造品や複製品を仕上げられる職人は残念ながら限られている。正しい模造や複製をすることで一つの作品を製作するのに要する労力・時間に対する認識ができる。通常、この理解を通じてはじめて正當な評価ができるようになり、芸術品に対する畏敬や尊敬の念、そして責任感が生まれる。

芸術品の及ぼす効果

経済性追求のために作業を簡略化したり、時間の節約をするために合成材料を使用することは修復作業に於ては考慮の余地はない。修復業も当時の材料を用いることで、材料の経年変化による作品の損傷被害の危険性を回避できる。文化財が消費財となる時、何世代に亘って蓄えられてきた人間のいろいろな知識の活用は期待できなくなる。量産品の時代は、個々の作品の価値判断をますます困難なものにしている。例えば、二〇〇年前家具の塗装面は「ぜいたく」の象徴だったが、今日単に日常の消費財の一つにすぎない。一部の収集家や愛好家だけが、過去の知識を包括した作品により現在を精神的に豊かにしている。

本当の修復家への道

修復の分野は人間によって生み出されたいろいろな文化財と関わっている。そして対象作品の違いにより修復家も分化してきた。「まともな修復家になるには十五年の修業が必要」とロックス氏は言う。十数年前にケルン専門大学に設けられた「芸術作品・文化財修復保存研究所」では絵画・彫刻・壁・石造物修復と保存に関する履習内容を含み、これを体系的に四年間で学べる。頭でっかちの芸術史家や批評家が個人の自由を実現する喜びを自ら体験するには鉋台の前であと十一年の修業が必要なのかもしれない。



同バロックだんす修復中のロックス氏

マンドリン製作・演奏家
内藤開喜
Yasuyoshi Naitoh ● PROFILE
富士市出身、現在ドイツ・ケルン市在住。海外のさまざまな文化情報を新しい切り口で取材し、レポートを送っていただいています。



ドイツロマン派の巨匠 J.ブラームス没後100年
多くの芸術家達を生んだ街は今も静かに芸術史を刻む。

—— デュッセルドルフ ——

ROSE THEATRE・EVENT CHECK LIST

1997年8月・9月・10月の催し物のご案内
財団法人自主事業をはじめ、一般貸館事業を営むたスケジュールです。

INFORMATION

1997 8 AUGUST

日	曜日	ホール	イベント
1	金	大	平成9年度青少年会議
		中	静岡県議会議員研修会
		小	ダルムシュタット・アンサンブル
2	土	小	富士地区合同ピアノ発表会
3	日	中	全労済富士地区共済会加入者の集い
		小	第6回藤の会演奏会～日本歌曲の夕べ～
5	火	小	主任研修会
6	水	小	ピアノ発表会 (福沢ピアノ教室)
9	土	中	映画上映と演出・羽田澄子の講演
		小	ピアノ発表会 (渡辺康代)
10	日	中	おさらい会 (N・Yダンシングキッズ)
		小	ピアノ・エレクトーン発表会 (松浦・進)
12	火	大	教職員表彰・講演会
15	金	中	富士市戦没者追悼式
21	木	小	泉流 夏の会
22	金	小	Amiche Picevoli
23	土	小	仲澤裕恵門下生第3回ピアノ演奏会
		小	平和へのメッセージ
24	日	小	ピアノ発表会 (佐野純子)
27	水	大	★民音ファミリー劇場「スノーマン」
28	木	小	はづき会ピアノ発表会
29	金	小	ジャトコおさひ会事例発表会
		大	★天童よしみコンサート
30	土	中	富士青年会議所40周年記念式典
		小	ピアノ・エレクトーン発表会 (吉村美由紀)
31	日	小	白石加代子「百物語」第3夜

※一般貸館事業については、平成9年6月上旬までの受付分です。
各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。

1997 9 SEPTEMBER

日	曜日	ホール	イベント
2	火	小	安全大会
3	水	大	静岡県農業委員会大会
		小	平成9年度下期オープン化粧品品海本部総決起大会
4	木	大	平成9年度第17回富士市民大学
		小	東部消費者問題シンポジウム
6	土	小	富士ミュージカルアンサンブル&ジュニア第14回定期演奏会
7	日	中	松竹特別公演「白足袋の女」
		小	★八十の会サロコンサートVI
11	木	大	平成9年度第17回富士市民大学
13	土	中	星陵高等学校第16回吹奏楽部定期演奏会
		小	ピアノ・エレクトーン発表会 (植田晴美)
14	日	大	第52回東海吹奏楽コンクール中学校大編成の部
		小	ピクチャー歌謡教室発表会
15	月	小	イブニングコンサート 第1夜
		大	鮫島有美子 日本の歌シリーズ
18	木	小	富士中・中央小・富士第一小 三校合同講演会
20	土	小	富士女性性の会10周年記念事業
21	日	小	ピアノおさらい会 (青木裕子)
23	火	小	下水道いろいろコンクール優秀作品表彰式
		小	ヴァイオリン発表会 (鈴木裕子)
25	木	大	平成9年度第17回富士市民大学
27	土	小	湖山病院第4回公開講座
28	日	中	平成9年度富士市青少年の船事後研修

□はロゼシアター主催事業 ★印は、ロゼ・チケットセンター窓口でもチケットを取扱う予定のものです。

ROSE THEATRE

EVENT GUIDE

展示室のご案内

展示期間	展示室	催事
7/30~8/3	一般・特別	平成9年度富士市展(第2期)
8/21~26	一般	'97平和のための富士戦争展
8/21~26	特別	食中毒防止ポスター展
8/28~31	一般	抱香会 書道展
9/3~7	一般・特別	富士を謳う 鈴木道雄作陶展
9/3~7	一般	'97花のシンフォニー展
9/8~10	特別	富士地区児童作品展
9/13~15	一般・特別	科学作品展
9/13~15	一般	第32回富士市発明くふう展
9/20~24	一般・特別	世界児童画展と幼児画展
9/25~28	一般	翰墨会第1回水墨画展
9/25~28	特別	内藤恒雄・手すき和紙展
10/2~5	一般・特別	平成9年度富士市展(第3期)
10/8~12	一般・特別	平成9年度富士市総合文化祭 (洋画・華道・陶芸・毛筆)
10/15~19	一般・特別	第27回富士市福祉展
10/25~26	一般・特別	大昭和製紙文化祭

ここが見どころ
イベントガイド

9月18日(木) 大ホール
ピアノ伴奏／ヘルムート・ドイチュ
アンサンブル／ウィルトウオー
カンマリアンサンフルジャパン
入場料／S席5,000円 A席4,000円
全席指定 (学生2,000円)

鮫島有美子
「あの頃」のうた

program
第1部 「日本の歌」より
この道...山田耕作 池
第2部 「世界の歌」より
夢路より...フォスター 池

常葉一雄さん 富士川町在住
楽器表紙「インタビュー」
「アンサンブル・デュオ・ソレイユ」を率いて日本とパリで演奏活動を行なう常葉さんはピッコロ・トランペット奏者。桐朋学園時代より小楽器の魅力にひかれ、曾根麻矢子さんとともに専攻科パリで共演も行った。地元でハロック音楽をこころよく演奏し、フランス製DJジャックウエイ&マクテュールモデルを手に入れた。ロゼで定期的な演奏会をこころよく抱負を語る。

広報係一年生
四月の内部異動で、広報係に配属になりました。はや二ヶ月、PRの難しさを痛感し、チケットの売り上げ、お客様の声がかかるこの頃でも、チケット完売の瞬間、終演後の皆さんの笑顔を見送るたびに「また次回も」と力が入る私です。 (U)

「ラジオ体操の歌」
「日本歌曲の夕べ」第二夜での話。本番二時間前の午後四時頃、司会の青島先生より曲に合わせてラジオ体操を、この依頼。僕とO君がやることになった。練習もそこそこで本番へ。結果は？音階は完璧な演奏。喝采の嵐！僕も涙腺がパヒューリよつかなア。

「お聞き合わせ」
ロゼ・チケットセンター内
ロゼ・メンバーズクラブ事務局
0545602500

チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
0545-60-2500 受付時間 9:00~19:00

すみや 富士本町店 ☎(0545)63-2233
富士中央店 ☎(0545)60-4567
富士市役所 ☎(0545)61-6262
ラホール富士 ☎(0545)53-4300

チケットセンター 沼津 ☎(0559)61-2405
カワセ書店 岡崎店 ☎(0545)71-9592
富士宮宮原店 ☎(0544)24-7160
タナガサ楽器店 富士 ☎(0545)52-1586

ユニコーンサービスカウンター 吉原店 ☎(0545)51-9027(代)
富士宮大宮店 ☎(0544)24-0255(代)
三島店 ☎(0545)51-5227
三島店 ☎(0559)73-3003



EVENT REPORT

宝塚歌劇花組公演「風と共に去りぬ」4月17日(休)ロゼシアター初の宝塚公演。チケット発売日には、電話が鳴りやまず、約三時間で昼・夜公演とも「完売」という大盛況ぶりでした。お客様の中には昼・夜公演とも観た方や東京、千葉など遠方からロゼにきた方もいらっしゃいました。



VOICE
●真矢みき、愛華みれの役どころの素晴らしい演技が堪能しました。(芝川町六十四歳女性)
●今日は眠れそうにありません。(富士三十三歳女性)
●一度は観たいと思っていた宝塚をロゼシアターで観られるなんて夢のようです。(富士三十八歳女性)
●女ですがパトラーに、ときめいてしまいました。すべてがカッコいい。(富士十七歳女性)
●素晴らしいかったです！はるばる富士まで来たかあり。(千葉県四十歳女性)
●今、妊娠五ヶ月です。今度は子供と一緒に観ていきたいと思えます。(富士宮二十四歳女性)



VOICE
●今春、卒業された方々の素晴らしい演奏を楽しく聴かせていただきました。今後の活躍を期待しております。(富士四十六歳女性)
●MAYコンサートが今後とも未永く行われることを祈っています。(富士二十四歳女性)

「ロゼ・メンバーズクラブ」会員更新と入会のお知らせ
ロゼシアター友の会「ロゼ・メンバーズクラブ」の更新の時期が近づいてきました。毎年九月一日(翌年八月三十一日まで)が会員有効期限となり、更新の方は更新手続きが必要となります。(年会費 二、〇〇〇円) また、会員の更新と同時に新規入会の受け付けも行います。この機会にぜひどうぞ。

★ロゼイベントニュース(年六回)
●文化情報誌「ロゼ」(年四回) 郵送サービス

★自主公演チケット優先受付
会員一人一公演につき二枚まで、一般発売日の前日(12時~18時)に優先的にチケットが購入できます。

★チケット割引サービス
会員一人一公演につき二枚まで、入場料を10%割引させていただきます。

お問い合わせ
ロゼ・チケットセンター
0545-60-2500



TICKET PRESENT
チケットプレゼントのお知らせ

皆様にご愛読いただいている文化情報誌「ロゼ」の創刊20号を記念して、自主公演のチケットをプレゼントします。

- ロシア国立ボリショイバレエ団
10月14日(火) 大ホール
ペア5組(10名)
- ベルリン放送交響楽団
11月1日(土) 大ホール
ペア5組(10名)

◆応募方法
ハガキに住所・氏名・年齢・職業・性別・電話番号とどちらか希望する公演を1つ明記し、8月31日までに
ご応募ください。
(当日消印有効)

住所
氏名
年齢
職業
性別
電話番号
希望公演名

〒406-0000 富士市豊原1-307-8
ロゼシアター
チケットプレゼント係行

※応募者多数の場合は抽選とします。

「ロゼ」1号から20号まで
お持ちの方に記念プレゼント
文化情報誌「ロゼ」創刊号(1号)から20号まで全てお持ちの方は、ロゼ・チケットセンターまでご持参ください。先着30名様にオリジナルテレホンカードをプレゼントいたします。

●お問い合わせ
ロゼ・チケットセンター
0545-60-2500